

■ 今しばらくドル強含みの展開は続きそう…

ドル/円の当面の上値の目安は「概ね 110 円あたり」という水準が想定される。

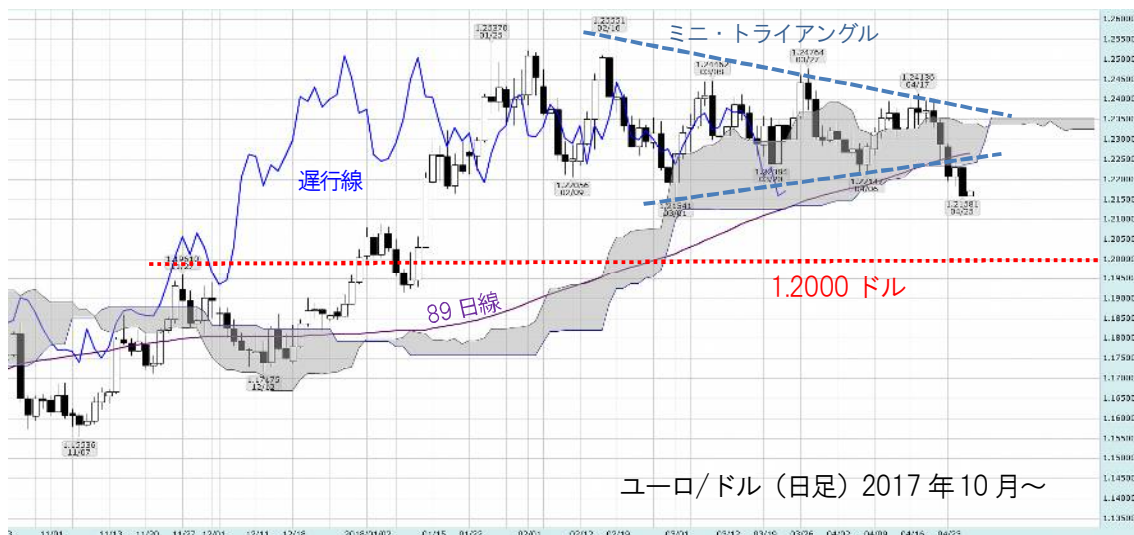
前回更新分の本欄でも述べたように、ドル/円が 2015 年 6 月に 125.85 円の高値をつけて以降、現在もなお三角保ち合い（トライアングル）を形成していると考えた場合、このトライアングルは A-B-C-D-E の 5 波構成になると見込まれ、そのうえで 2016 年 12 月高値からの調整を C 波とすると直近（3/23）安値=104.64 円は C 波の終点=D 波の起点と考えることもできると考えることができそうである。

なお、この D 波の目標値は、一つに C 波の下落幅に対する 38.2%戻し水準と考えられ、それは計算すると 109.95 円となる。それ以前に 89 日線や一目均衡表の日足「雲」を上抜ける必要もあったわけだが、今週に入ってドル/円は既に 89 日線をクリアに上抜け、昨日（4/25）は終値で日足「雲」上限を上抜けた。もはや、執筆時までには 109.50 円近くまで値を上げる場面も垣間見られており、やはり心理的な節目の一つでもある 110 円処は大いに意識されそうだ。

ちなみに、執筆時におけるドル/円の 200 日線は 110.26 円に位置しており、同線も一つの節目として意識されやすいと見られる。また、ドル/円が 2 月下旬あたりから一種の「転換保ち合い」のフォーメーションを形成していたと考えれば、「そのネックラインと見られる水準（107.30-40 円あたり）から 3 月 23 日安値までの値幅と同じ値幅をネックラインから上方にとった「当面の目標値になり得る水準」というのも 110 円前半あたりの水準ということになる。

やはり、とにもかくにも米 10 年差利回りが 4 年 3 か月ぶりに 3%台に乗せてきたことが何より大きい。また、足下ではドル高と同時にユーロ安や円安の方向にとかく傾きやすい状況にもなっている。ことにユーロ圏については、このところ域内景気の先行きにやや陰りが見え始めるところが弱気材料となっている。3 月のユーロ圏景況感指数は 3 カ月連続の低下となり、今週 24 日に発表された独 4 月の ifo 景況指数は 5 カ月連続の低下となった。

結果、下図でも確認できるとおり、足下のユーロ/ドルは弱気になびきがちな展開となっている。実際、今週 23 日伊は 89 日線と一目均衡表の日足「雲」下限、さらには 2 月半ば以降に形成されていたと見られる「ミニ・トライアングル」の下辺をも次々に下抜けた。



さらに、ユーロ/ドルは日足の「運行線」も日々線を下抜け、足下では 1.2200 ドル処の節目水準をも下回る展開となってきている。今後、3/1 安値=1.2154 ドルをあっさり下抜ければ、当座の目線は重要な心理的節目である 1.2000 ドル処まで下がることとなろう。

本日（4/26）行われる ECB 理事会では、ユーロにとってやや弱気の材料が提供される可能性もあり、そこは要警戒。また、今週 26-27 日の日程で行われる日銀金融政策決定会合も一層の円売り・ドル買い材料視される可能性があると思われる。（04月26日 10:30）